

# 国宝 宇佐神宮

うさじんぐら 神仏習合の里散策マップ



宇佐神宮本殿

一之御殿、二之御殿、三之御殿の三棟が横に並び、本殿を横から見ると屋根がM字に見える八幡造という古い神社形式を今に伝えており、国宝に指定されています。



宇佐神宮ホームページ



東

## 主な祭り

**御神幸祭** 7月31日、8月1日、8月2日

宇佐夏越祭りの名前で知られており、3基の神輿が初日は上宮から頓宮へ(お下り)、最終日は頓宮から上宮(お上り)と繰り返す勇壮華麗な祭りです。

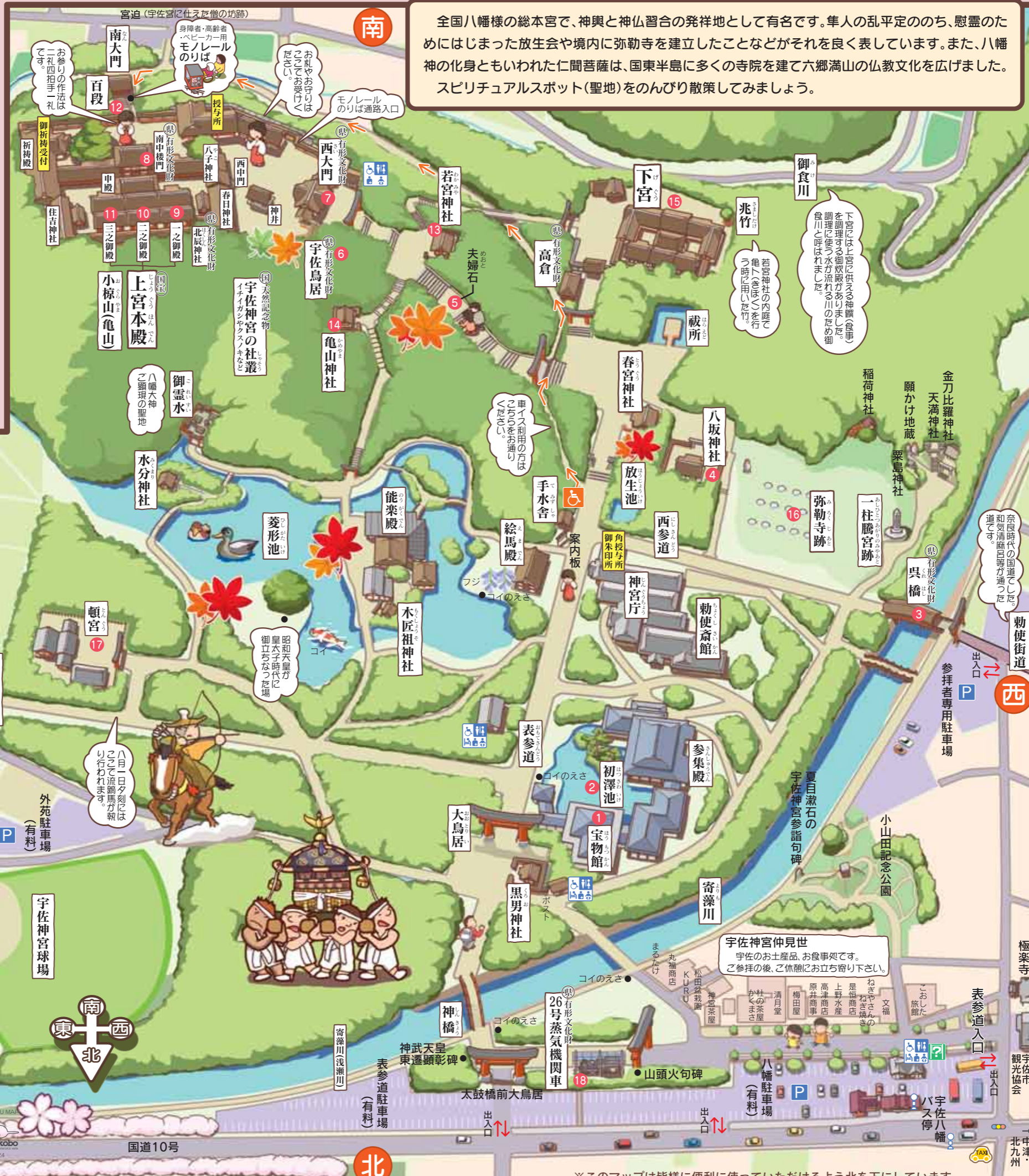
期間中は流鏝馬神事をはじめ、様々なイベントや花火大会が開催され、大いに盛り上がります。



**仲秋祭** 10月第2月曜日を含む土・日・月曜日

放生会とも呼ばれ、神仏習合文化を伝える宇佐神宮最古の祭礼。奈良時代、八幡神は南九州の隼人の反乱を鎮圧しました。その後、病気が流行り凶作が続いたことから隼人の霊の祟りと恐れられます。そこで、この霊を慰めるため和間の浜に鮫を流したのが放生会の始まりです。

全国八幡様の総本宮で、神輿と神仏習合の発祥地として有名です。隼人の乱平定ののち、慰霊のためにはじまった放生会や境内に弥勒寺を建立したことなどがそれを良く表しています。また、八幡神の化身ともいわれた仁聞菩薩は、国東半島に多くの寺院を建て六郷満山の仏教文化を広げました。スピリチュアルスポット(聖地)をのんびり散歩してみましょう。



- 1 宝物館**  
国宝の孔雀文器をはじめ、宇佐神宮や弥勒寺にまつわる貴重な文化財を展示しています。
- 2 初澤池**  
奈良の菟沢の池、京都の広沢の池とともに日本三沢の池と呼ばれています。
- 3 呉橋**  
境内にある社殿同様の檜皮葺きで、唐破風の屋根に覆われた豪華な橋であり、県の有形文化財に指定されています。かつては弥勒寺の仁王門へとつづく橋でした。10年に一度の勅使祭のときだけ扉が開かれます。
- 4 八坂神社**  
弥勒寺跡にあり、須佐之男命を祀っています。毎年2月13日に行われている鎮祭はかつて御心経会と呼ばれ、僧侶も奉仕する神仏習合の祭礼です。
- 5 夫婦石**  
1人の方は両足で、夫婦やカップルの方は手をつないで一緒に踏むと幸せになれるといわれています。
- 6 宇佐鳥居**  
宇佐神宮独特の鳥居で額や額角が無く、柱の上部に黒い台輪が置かれているのが特徴です。上宮手前の鳥居は木製で県指定有形文化財にも指定されており、境内の鳥居はこの様式になっています。
- 7 西大門**  
熊山文化の華麗な唐破風の門で、本殿や勅使門とともに宇佐神宮を代表する建造物の一つです。
- 8 南中楼門(勅使門)**  
皇族や勅使が通る門で、宇佐神宮を象徴する建造物の一つです。県指定有形文化財に指定されています。
- 9 一之御殿**  
725年に八幡大神(応神天皇)が祀られました。
- 10 二之御殿**  
733年に比売大神(多岐津姫命、市杵嶋姫命、多紀理姫命)が祀られました。
- 11 三之御殿**  
823年に応神天皇の母である神功皇后が祀られました。
- 12 百段**  
人食い鬼の力と八幡大社の知恵が衝突したという伝説の石段です。
- 13 若宮神社**  
八幡神(応神天皇)の若宮の仁徳天皇と4人の皇子を祀っています。
- 14 亀山神社**  
上宮のある小椋山(別名:亀山)の山神を祀っている神社です。
- 15 下宮**  
御祭神は上宮と同じです。古くは御炊殿(みけでん)といわれ、神へ捧げる食事を調理する場でもありました。創建は810年~824年とされ、農業と関係が深いといわれています。近くには兆竹(さまだけ)が生えています。これは、かつて占いの際に使われていた竹と伝えられています。
- 16 弥勒寺跡**  
738年に境内に建立された神仏習合文化発祥の壮大なお寺の跡。国東半島の六郷満山文化に大きな影響を与えました。明治時代の神仏分離により廃寺になりました。かつてここで安置されていた薬師如来坐像は、現在では近くの大善寺に安置されており、国の重要文化財です。
- 17 頓宮**  
夏越祭の時に、神は神輿のり、御旅所である頓宮へ2泊3日の間滞在します。
- 18 26号蒸気機関車(クラウド号)**  
県指定有形文化財。明治24年のドイツ製で、宇佐駅と宇佐神宮を結ぶ宇佐参宮鉄道の主役として昭和40年まで活躍しました。JR九州の至宝ともいえる文化財です。

※このマップは皆様に便利に使っていただけるよう北を下にしています。